



「さよなら原発」集会に飛び入り参加された沖縄辺野古のリーダー・山城博治さん。「基地も原発も安倍もイライナイ！」と熱いメッセージ。(3月13日 大阪市中之島)

平和がいちばん

2016年3月15日

第 105 号

平和で豊かな枚方を

市民みんなで作る会

戦争法廃止 2000万署名

昨年9月、安倍政権は憲法違反の安保関連法＝戦争法を強行成立させました。そして今夏の参議選で憲法改正発議に必要な2/3の議席を取り、国民投票に進もうとしています。3月2日には「在任中に成し遂げたい」とまで言い始めました。この安倍政権の最大のパートナーは『おおさか維新の会』です。この会は「3～4月に第一次試案を発表」(片山共同代表)し、参院選での議席の確保で改憲勢力の中に位置を占めたいと狙っています。

昨年末から安倍政権は「経済で結果を出す」と改憲姿勢を控え、新三本の矢(GDP・出生率・介護離職)などのごまかしで世論を取り込もうとしました。しかしアベノミクスは失敗。株価つり上げに年金資産が投じられ、打つ手なしのマイナス金利。大企業や大株主は潤ったが市民に滴は落ちてきませんでした。実質賃金は下がり、非正規労働者が増え

ています。5兆円もの軍事予算、沖縄辺野古での基地建設は断念しない。福島では被ばく健康被害が増えているのを無視し原発再稼働。安倍政権は政策の失敗を解決するのではなく、平和と民主主義を求める市民の権利を制限するために憲法改正を進めようとしているのです。安倍首相の焦りの表れです。

立憲主義・平和主義・民主主義を否定する憲法破壊。いま全国各地で「戦争法廃止—2000万署名」が取り組まれています。この数は先の総選挙比例区における自民党得票数(1766万票)を上回ります。私たちもこの署名に取り組んでいます。駅前やスーパー店前、戸別訪問で対話を広げています。対話で「憲法を守ろう」「戦争はイヤだ」「安倍は辞めてもらおう」などの共感が広がり深まっています。

4月24日に集約し、5月3日に全国集計されます。あと数週間、力を合わせて頑張りましょう。

投稿

輝く海と瞳の辺野古 富岡 翔子

辺野古の海は美しくかった。コバルトブルーと淡い水色の織りなす状態は限りなく輝いていた。そしてテント・ゲート前の人々は優しくてあたたかかった。気軽に声をかけ、腕を組み、お菓子を配ってもてなしてくれた。何より皆笑顔が素敵だった。そしてリーダーの山城博治さんは一段と素敵だった。話も歌も笑顔も人を引き付けてはなさない魅力にあふれていた。座り込む若者達への熱い思いが伝わってきて胸が一杯になった。「無理をするな、逆らってはいけない」。抱かればかりに一生懸命話しかけている。機動隊の若者達は無表情だった。皆一様に目はうつろな灰色。必死で彼らに話しかけるおばあがいた。ごぼう抜きされてもされても又座り続ける人たち。たくましく、しなやかに、その明るい瞳に希望と闘いを学んだ。「機動隊の若者の中に瞳がうるんで

いる子もいたよ」と話した。私も両脇を二人の隊員に抱えられごぼう抜きされながら恐怖心は消えていた。不思議な感覚だった。「歩いて下さい、歩いて下さい」という若い隊員の体温は温かかった。同じ事を毎日繰り返す隊員とゲート前の人。そこに愛はうまれなかったのか、切に思う。現場にはトイレ車もあり、救護班もいる。毎日の事、細かい気配りに頭が下がる。闘いながら心はやさしく暖かくなるのだ。先の大戦で日本は沖縄を捨てたのだ。戦争に正義はない。我を忘れ狂気の中で生きている。これ以上、沖縄の美しい自然を壊し、沖縄の人たちを踏みこじってはいけません。皆様、辺野古に行きましよう。〈追伸〉三月四日、安倍首相が建設工事の一時中断を表明。運動と世論の力だ。参院選目当てなら余りにも卑怯。永久に中断を。



2月25日 市長の市政運営方針演説 特徴は・「美術館問題」に一言も触れていない ・駅前再開発など多くの事業は前市長の政策の引き継ぎで新鮮味がない ・市立ひらかた病院や保健センターの駐車場の有料化など「受益者負担」の強化、民間活力の導入による外部委託の拡大など維新政治の持ち込み 等々。市民負担の拡大と市民サービスの切り下げにつながらないように警戒が必要だ。また「全国学力テストで全国平均を上回ることを目指し、学校別の成績公表も検討する」ことも提案されている。点数がすべての競争主義教育に特化させないよう監視が必要だ。

3月4日～ 各派代表質問 「美術館問題に触れない理由」が質された。市長は「今後の方針が定まっていない。議会から様々な意見をいただいた。現在、協議中で触れることを控えた」と答弁。協議中でも市民や議会への経過報告は必要だ。意思決定過程の情報公開を謳った市長の方針に反するのではないかと。

3月8日 本会議で発言 「市長給与の2割カット、退職金ゼロ」の条例案。このこと自体は歓迎するが、私は「期末一時金（ボーナス）はカット前の給与で支給される。給与カットというなら期末一時金もカットの対象にすべき」と意見を述べた。またこれまで福祉部の所管であった「介護保険、高齢者福祉」に関するものが健康部へ移管する。「高齢者問題は福祉抜きには語れない。健康面を重視するあまり福祉の視点での市民サービスが弱まってはならない」と危惧と意見を述べた。

3月9日 高浜原発3・4号機の再稼働差し止め 大津地裁の決定が出された。当然とは言え、画期的な判決。再稼働直後にトラブルを起こすような原発。再稼働など認めることはできない。

2月24日 2月分議員報酬から245,000円を大阪法務局に供託。

意見箱

私達が住むべき町は・・・

田中 祥二

枚方に住み着いて40年余になる団塊世代です。最近2025年問題がクローズアップされています。団塊の世代が後期高齢者になり、高齢者の割合が3人に1人とピークになる年だそうです。でも今回取り上げたい問題はここから先の話です。高齢者の数はこの年を境に減少傾向となるのですが、それだけで済まない問題が待ち構えています。

それは、高齢者が消えていくに伴って若い人が増えていく構造になっていないことなのです。枚方市の人口減少＝消費の衰退＝町の空洞化が同時に起こると囁かれています。高齢者の消費能力はたかがしれていますが、その数の多さが問題なのです。2025年以降一時的に介護需要・葬祭需要が増えるとしても、その後には静寂した町が現れます。

そういう事態になる前に、枚方市の新しい未来像を描く必要があり、その方策を今から考える必要があります。

それには、自立する産業を市に産み育てること。自立する産業とは、例えば食料の地産地消、エネルギーの地産地消等々。市の活性化は駅前の再開発といった昔ながらの手法ではなく、枚方市で生まれた子供たちが、ここで育ち、学び、そしてここで働ける町を作り出すことです。

新しい事業はベンチャー産業としてあちこちに生まれてきています。こうした産業を枚方に誘致する努力が必要で、多分これからはコンパクトに生きる時代。エネルギー一つとっても大型発電機をゴンゴン回すのではなく、小型高性能発電機をサラサラと回して必要な時に必要な分だけ作るとか。そういう新産業がある筈です。新たな発想の農業形態。林業の再構築とか、こうした新しい力を育てる行政が必要です。

そうした未来を見据えて動き始める町にこそ住み続けたいと思うこの頃です。

〒573-0027

枚方市大垣内町

2丁目8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)

鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)

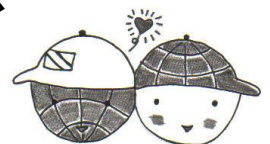
奥村 秀二 (弁護士)

おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)

メールアドレス：hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク

塔本賢一さん作